

The background features a traditional Japanese illustration of a woman in a kimono, looking towards the left. Her hair is styled in a bun with a hairpin. The kimono has a patterned collar and a small floral motif. To the left, there is a grid-like structure containing various Japanese characters and symbols, possibly representing a lottery or a game board. The overall color scheme is a muted red or pinkish-brown.

江戸とその周辺の富

Part 3

ここでは、江戸の御免富で発行された富札、富札を作るための印形、富札屋の店先を描いた錦絵などを紹介する。

1810～40年代に最盛期を迎えた江戸の御免富では、興行形態が多様化し、都市部の寺社の中には地方の主催者に会場を貸す事例もみられた。富札は和紙に番号を墨書し、さまざまな印を捺す方法で大量に作られ、市中に出回った。

富の流行は、当せん番号を対象にした非公認の賭け事「影富」や「第附」も生み出した。これは少ない掛け金で参加できたため、庶民に広がった。

江戸の御免富一覽

1810～40年代は江戸における御免富の最盛期で、2～3日に一度のペースで富興行が行われていた。そのため、開催状況が一目でわかる一覧表が作られた。

This is a historical document titled "御免御富金高日限附" (911572). It is a grid-like table listing various events and their associated costs. The headings include "毎月御富" (Monthly Festival), "四季之早見" (Four Seasons Early View), and "冬秋夏春" (Winter, Autumn, Summer, Spring). The text is written in vertical columns, typical of Edo-period documents.

御免御富金高日限附

911572

江戸の各地で開催されていた御免富の一覧表。各富興行の仕法をより抜いている。大別して「毎月興行之御富」「四季之早見」、ならびに「四季之早見」に記載された各富興行の仕法、の3つの部分からなる。文政年間（1818～30）のものと考えられる。八丁堀七軒町・松坂屋吉蔵が板行した。

This is a historical document titled "御免御富金高日限附" (911573). It is a grid-like table listing various events and their associated costs. The headings include "毎月御富" (Monthly Festival), "四季御富" (Four Seasons Festival), and "印支二十" (Twenty Branches). The text is written in vertical columns, typical of Edo-period documents.

御免御富金高日限附

911573

江戸の各地で開催されていた御免富の一覧表。大別して「四季御富」「毎月御富」、ならびに「四季御富」に記載された各富興行の仕法、の3つの部分からなる。先の「御免御富金高日限附」（911572）と同じく松坂屋吉蔵が板行し、文政年間（1818～30）のものと考えられるが、富興行の採録数は本資料の方が多い。

江戸三富の富札

江戸の御免富のうち、湯島天神、谷中感応寺（天王寺）、目黒瀧泉寺で開催された富は、その由緒や歴史から、「江戸三富」とよばれ有名であった。



富札
湯島天神
916711



富札
谷中感応寺
916723



富札
目黒瀧泉寺
916733



谷中天王寺富の図（『東都歳時記』国立国会図書館蔵）

江戸の御免富の富札

江戸三富以外にも、江戸の各地では盛んに御免富が行われ、大量の富札が発行された。

また、御免富の興行地には、①自らの寺社敷地内で興行するもの、②他の寺社に境内を提供するもの、③両方の要素を兼ね備えるもの、の3パターンがあった。



富札 羽州山形
熊野神社 相森神社
916811

出羽国の熊野神社が主催し、相森神社で行った富興行の富札。繁華な日本橋にある相森神社は自ら富興行を行うことはなく、他の寺社の富興行に境内を提供することに特化していた。



富札 幸手不動院
相森神社
916729

武蔵国の幸手不動院が主催し、相森神社で行った富興行の富札。



富札 青山善光寺
上野常楽院
916756

江戸の青山善光寺が主催し、上野常楽院で行った富興行の富札。常楽院は他の寺社の富興行に境内を提供することに特化していた。



富札 足利鋆阿寺
福德神社
916810

下野国足利の鋆阿寺が主催し、福德神社で行った富興行の富札。福德神社は、自ら富興行を行う一方、繁華な地の利を生かし、境内を他の寺社にも提供した。



富札 三州岡崎
六所御社 芝神明
916747

三河国岡崎の六所神社が主催し、芝神明で行った富興行の富札。芝神明は自社の富興行を行う一方、他の寺社の富興行を受け入れていた。



富札 三州白鳳寺
湯島天神
916765

三河国の白鳳寺（猿投神社の神宮寺）が興行主となり、湯島天神で行った富興行の富札。湯島天神は自社の富興行を行う一方、他の寺社の富興行を受け入れていた。



江戸の主な開催地

富札を作る印形

富札は、番号の墨書と様々な印を組み合わせて作られた。
捺された印には組名や、めでたい図柄などがあった。様々な印を捺すことは、富札の偽造防止にも役立った。



A

印形 御陣場宮

902041

組名の印形。「地・福・円・満・楽」の5組のうち、「地」。



印形 御陣場宮

902043

組名の印形で、「満」。



印形 御陣場宮

902040

組名の印形で、「楽」。

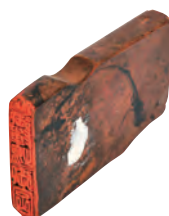


C

印形 御陣場宮

902035

宝珠形の印面。



B

印形 御陣場宮

902038

卷子形の枠の中に「御陣場御宮」とある。



E

印形 御陣場宮

902047

七宝形の枠の中に「御免御富」とある。



D

印形 御陣場宮

902029

砂金袋形の枠の中に「一粒万倍」とある。



F

印形 御陣場宮

902033

興行地を示す印形。「甲州府中浅間社内興行所」とある。

A

B

C

D

E

F

富札 御陣場宮
甲州府中浅間社

916777

甲斐国の市川御陣場宮が主催し、甲府工町の浅間神社で行った御免富の富札。卯年9月25日の富突きのもので、「地」の組、「千二百九拾七」番である。



錦絵にみる江戸の富



平河天神

貞景（作画期：19世紀前半）

901177

平河天満宮（平河天神）の富札と美人画。参詣ブームの中で、門前の美人画は多く描かれたが、貞景は江戸の富くじと美人画のシリーズを描いている。



芝神明

貞景（作画期：19世紀前半）

901180

芝の神明宮の富札と楊弓場の美人画。神明宮の境内・門前では富や相撲興行が催され、また茶屋や楊弓場が立ち並んでいた。弓場の女性は初期の浮世絵から描かれているが、神明宮の楊弓場を描くことで富くじが「当たる」ことをかけたとも考えられる。



富札 武州一宮
平河天神

916776



富札 芝神明

916743



蔵前八幡

貞景（作画期：19世紀前半）

901179

蔵前神社（当時の正式名称は石清水八幡宮）と美人画。同社は修復費を集めるための勧進相撲が多く催されたことで知られているが、同様に富興行も行われた。



下谷六阿弥陀

貞景（作画期：19世紀前半）

901178

下谷の六阿弥陀（常楽院長福寿寺）の富札と美人画。「吉月吉日売出」「大当り」と富くじの看板がみられる。

影富・第附の存在

御免富の流行を背景に、江戸では、御免富の仕組みを利用した非公認の賭け「影富」「第附」が行われた。
 少額の賭け金で参加でき、高額な富札を購入できない庶民でも容易に手が出せたことから、広まっていった。

影富・第附とは

御免富の多くは、主要な当せんは 100 本で、最初に決まる当せんを「一の富」、最後に決まる当せんを「突留」（100 番目であることが多い）といった。
 「影富」は、一の富の当せん番号（出番）をもとになされ、主な対象は「江戸三富」であった。
 「第附」は、影富を簡略化したもので、例えば、一の富の出番の百番台にどの数字がくるかを当てるなど、当せん規定は様々であった。掛け金は 1 文単位と少額で、賞金は最大で 8 倍になったという。
 これらの賭けに参加していた庶民にとって、一の富の出番が焦点であった。ここに目をつけて、一の富の出番のみを板行し、「おはなし、おはなし」といって 1 枚 4 文で売り歩く者が現れた。

富一留書抜

911574

1823～26（文政6～9）年に江戸各所で毎月興行されていた御免富の、一の富と突留の当せん番号（出番）のみを書き出した一覧表。影富や第附の参考にされたと考えられる。